



音威子府村公民館図書室

音威子府(おといねっぷ)という地名から何を想像しますか？

北海道の自治体で一番人口が少ない村。2024年7月現在622人。

札幌から道北の稚内へ向かい、特急で3時間少し。しかし直行の特急は1日3本しかなく、旭川から快速に乗り換えることが多く、どうしても4時間半以上移動にかかります。

車内販売がないので、行く時は食べ物や飲み物を買って入れておくことをお勧めします。

音威子府そばを懐かしむ方もいるでしょう。店主がお亡くなりになり、あいにく駅で食べることができず、とても淋しいです。見た目は太くて真っ黒。「挽きぐるみ」という作り方による蕎麦でした。

1989年4月に廃線になりましたが、音威子府からオホーツクの浜頓別を通して稚内へ向かう天北線がありました。列車の乗り換えの際によく蕎麦をすすったものです。

今回、珍しく高校を訪れました。北海道おといねっぷ美術工芸高等学校です。1年生は木工の基礎をしっかり学び、2年生で美術コースと工芸コースに分かれます。共通科目では機械実習も行われ、機械の操作を習得します。3年生になると卒業制作へ向けての取り組みが始まります。2002年、村立である北海道唯一の工芸科専科高校として誕生しました。

全寮制で、全道はもちろん日本全国から入学志願があります。

デザインや木工インテリアに力を入れており、その作品のクオリティはとにかく高い！是非公式HPをご覧ください。私も工芸高校の出身なのでとても親しみを感じました。

この高校の部活に文芸部があり、図書室を活用した文筆活動をしているとのこと。曜日が合わず生徒には会えませんでした。工芸技術を学ぶ傍ら文学に興味を抱いてくれるって、とても嬉しいです。卒業生が置いていった本がとても多いそうです。

音威子府村の人口のうち、この高校に関わる方が全体の約15%を占めているとのこと。10代の多い村ということになります。夏休みとかになると生徒はみんな帰省してしまうので、どっと人口が減るようです。

美術や工芸に関心あるお子さんがいたら話題にしてみてください。3年間音威子府で生活するって悪くないです。

さて、工芸高校から徒歩10分ぐらい歩くと音威子府村役場があります。役場に入り、奥の方へ歩いていくと、音威子府村公民館図書室があります。小説、児童書が中心で他のカテゴリーはあまり扱っていません。手前に児童書を配架しているのですが、上段の棚板を全て取り外し、天

井から飾り付けをして、入室した時のアイキャッチはとても素敵です。3畳ほどカーペットを敷いているコーナーでは靴を脱いで読み聞かせなどできます。

新着コーナーはもちろんPOPで紹介。やはり新着から借りられていきます。

図書データはコンピュータ化しているので、どこからでも検索することができます。この規模の公民館図書室ではデータ管理していない施設も多いので、とても丁寧に管理しているなという印象です。

住民が本を購入するには名寄、もしくは旭川まで行かないと入手できない地域。

地元小中学校の生徒は全体で30人程度。役場から少し歩いたところに校舎があります。人数が人数なので1つの校舎になってしまいます。

人口は少ないけど音威子府の人たちはとても明るく、少ない人口を会話のネタにしているほど。今まで音威子府には何度もバスの乗り換えで下車していた村なので、また行きたいです。

追伸:音威子府から中頓別、浜頓別へ向かうには町営バスを事前予約しないと運行しません。また恐ろしく便数が少ないので、時間に「たっぷり」ゆとり持って移動するようにしてくださいね。

2024年6月訪問

加藤 重男